

ellipse

[エリプス]

TOPICS

レポート

特別シンポジウム：ノーベル賞受賞者に聞く 「ILC が開く科学の未来」

楕円(ellipse)には焦点がふたつあります。男性中心の社会から、女性と男性がそれぞれに中心(焦点)となる社会を目指すという思いを込めて、誌名を「エリプス」と名づけました。



ワ・タ・シ

深津千鶴 FUKATSU, Chizu イラストレーター
東京生まれ。1988年、お茶の水女子大学文教育学部地理学科卒業。在学中に、『週刊朝日』誌上にて「山藤章二の似顔絵塾」特待生となる。広告代理店勤務を経て、1990年より作家活動を開始。書籍装画、CDジャケットなど多く手がける一方、エッセイ執筆、壁画制作などの活動を展開している。



特定非営利活動法人
お茶の水学術事業会

REPORT

事業報告(共催講演会)
桜蔭会山梨支部講演会
「私の半生と出会った女性たち」
(講師：大村 智 博士)
夢のつばさ♥プロジェクトニュース

INFORMATION

お茶の水女子大学イベント情報
事務局よりお知らせ

レポート 特別シンポジウム：ノーベル賞受賞者に聞く 「ILC が開く科学の未来」

【日時】 2018年8月5日(日) 14:00～17:00

【会場】 お茶の水女子大学 徽音堂

【共催】 お茶の水女子大学、高エネルギー加速器研究機構、
岩手県立大学ほか計 17 機関、団体

【プログラム】

開会あいさつ 森田育男 (お茶の水女子大学理事・副学長)

はじめに 「現代素粒子研究の主役・加速器」
高柳雄一 (多摩六都科学館館長)

バリー・バリッシュ博士講演
「ILC、世界で最も重要な素粒子プロジェクト」

シェルドン・グラショウ博士講演
「私たちは今 ILC を必要としている」

ビデオメッセージ
小柴昌俊博士、大隅良典博士

パネル討論
グラショウ博士、バリッシュ博士、
高柳館長

お茶の水女子大学は、高エネルギー加速器研究機構を始めとする諸機関、諸団体と共催し、ノーベル賞受賞者を迎えて国際シンポジウムを開催した。

このシンポジウムのテーマである ILC は国際リニアコライダ (International Linear Collider) の略称。地下 100 メートルに掘った全長 20 キロメートルのトンネル内に、次世代・最新鋭の直線型電子・陽電子衝突加速器を設置して、電子と陽電子を世界最高エネルギーまで加速して衝突させることにより、ミニビッグバンの状態を実現し、そこから引き起こさ

れる素粒子反応を研究する構想である(資料 1)。1990 年代初めから日本、ヨーロッパ、北アメリカでそれぞれリニアコライダー計画が構想され、

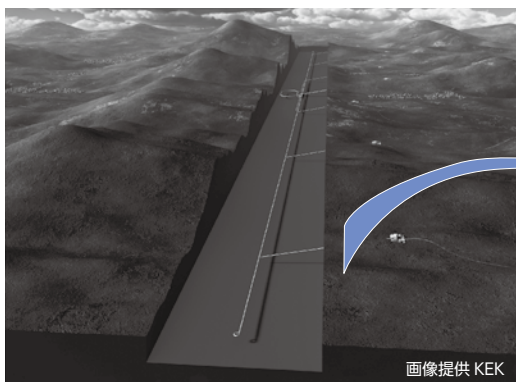
研究者間でワークショップが重ねられた。2004 年国際技術諮問委員会 (ITRP) が加速器の基本技術を超電導高周波空洞に一本化する勧告を行ったのを受け、世界で 1 台の計画すなわち ILC に統合された。現在、49 の国と地域の、300 以上の研究機関、大学から 2,400 名以上の技術者、研究者が参加し ILC の設計と技術開発作業を行っている。

この施設の建設地としては、国際チームによる ILC の技術設計書が完成した 2012 年に、電子・陽電子円形衝突加速器による素粒子研究の国際研究拠点となつていると同時に、ILC の技術開発において世界を先導してきた日本が最適であると、国際将来加速器委員会 (ICFA) から提言が出た。これを受けて 2013 年に国内の有識者で構成された ILC 立地評価会議は、人工振動がなく、活断層のない硬い安定した岩盤を有し、将来の拡張の利便性から北上山地を ILC 候補地として最適であると結論した。

今回の特別シンポジウムは、小学生以上を対象とし、「ILC とはどんな実験装置なのか?」「私たちに何をもたらしてくれるのか?」を考えるもので、米国の二人のノーベル物理学賞受賞者が登壇し、日本のノーベル物理学賞受賞者の小柴博士、ノーベル生理学・医学賞受賞者の大隅博士がビデオ出演するという豪華な顔ぶれであった。徽音堂での開催には当事業会の副理事長でもある菅本品夫 お茶の水女子大学名誉教授の本学への働きかけがあったということである。



資料 1



画像提供 KEK

写真 1



Photo by Yukio Yanagi

開演 30 分ほど前に会場に向かうと大勢の聴衆が徽音堂入り口に向かっているところだった。会場はほぼ満席、約 900 人の入場者だそうだ（写真 1）。小学生、中学生ぐらいの子どもも多い。夏休み中だからというだけではなく、やはり宇宙創成の謎に挑戦するというロマンあるテーマが魅力的なのだろう。

冒頭、共催を代表して、お茶の水女子大学の森田育男副学長の挨拶があった。バリー・バリッシュ博士、シェルドン・グラショウ博士への歓迎と ILC 計画に寄せる期待と合わせて、会場となった「徽音堂」の紹介もあった。呼び名（キインドウ）、意味（「徽」は美しいという意味で、徽音は美声そして美德に繋がる）などを説明され、「お二人の先生方の貴重なお話をお楽しみいただくとともに徽音堂という名前にも親しんでいただければ」と締めくくられた。

はじめに－「現代素粒子研究の主役・加速器」

講演に先立ち進行役の高柳雄一 多摩六都科学館 館長から、素粒子、素粒子物理学、そして ILC についてスライドを用いた丁寧な説明があった。

* * *

全ての物質の究極の構成要素である素粒子の世界を探索するのが素粒子物理学で、物質を構成するものがどういふものか、すなわち宇宙はなにからできているのかを理解することを目的とする。計算によって素粒子の存在などを提唱する素粒子理論と、実験によってそれを検証する素粒子実験に分けられる。実験には加速器という装置が使われる。

現在は 17 種類の素粒子の存在が確認されている。最後に見つかったのがヒッグス粒子である。1964 年にヒッグス博士らによって提唱されたが、実際に発見されたのは約 50 年後である。2012 年に CERN（欧州合同原子核研究所）が世界最強の大型ハドロン衝突型加速器「LHC」を用いて発見した（資料 2）。

ヒッグス粒子は他の 16 種類の素粒子に質量をもたらすという意味で特別な粒子である。CERN で見つかった素粒子が、

資料 2



果たして本当にヒッグス粒子なのかを検証し、その性質について詳しく調べ、未知の素粒子の存在、時間・空間以外の未知の宇宙（次元）の存在などを突き止めることが今の素粒子物理学の一つの重要なテーマである。

しかし、陽子加速器である LHC では、これ以上の精密な研究が難しく、ILC への期待が高まっている。

いよいよ二人のノーベル物理学賞受賞者の講演である。

バリー・バリッシュ博士講演 「ILC、世界で最も重要な素粒子プロジェクト」

バリッシュ博士は、2017 年重力波の検出への貢献でノーベル物理学賞を受賞。2005 年から 2013 年まで ILC の設計リーダーを務めた。

* * *

現在、素粒子物理学の分野で課題となっている、質量、ヒッグス粒子、宇宙の成り立ち、ダークマター、標準理論の問題点、超対称性理論などを解明していくうえで、最も重要な実験ツールは加速器である。



Photo by Yukio Yanagi

CERN の LHC に代表される現在の高エネルギー加速器は陽子を用いるが、ILC は電子・陽電子を衝突させる加速器である。電子は内部構造を持たない素粒子であるため、衝突結果がシンプルで理解しやすく解析しやすいものになることが期待できる。

また、現在の円形の加速器では円を描きながら加速するため、電子を加速するとエネルギーが周囲にも放射光として発散してしまい効率が悪い。ILC は二つの線形加速器で構成され、電子・陽電子を直線上で衝突させる。

このように ILC は、多くの成果が期待できるものであるが、そのためには、内部に多数の高性能の超伝導加速空洞を備える必要があるなど、innovative なデザインを要する。そこで、世界中の加速器の専門家が集まり 7 年間にわたり、設計、操作、運用にわたる様々な問題について議論を重ねた。その間に、いろいろなイノベーション、技術的な進歩があり、ILC 計画は実現可能な段階に到達している。

ILC のある場所に世界の研究者が集まり、彼らが開発してきた様々な技術や専門知識を持ち込むことになる。日本にそのような国際拠点が実現することを心より期待している。

シェルドン・グラショウ博士講演 「私たちは今 ILC を必要としている」

グラショウ博士は、1979 年電弱相互作用の統一への貢献

によってノーベル物理学賞を受賞。実験ではなく理論を専門とする立場から、ILCの意義とその波及効果についてお話をされた。

今回は ILC 関連の会合に参加するためだけに、自発的にはるばる米国から来日したこと、ILCの建設が決まり「いよいよ掘るぞ」となったらシャベル片手に再び日本に駆けつけたいという言葉に、科学者としての並々ならぬ情熱のほとばしりを感じた。

* * *

ILCの意義を一言で言うと、「高エネルギー物理学は今 ILCを必要としている」。世界で最も強力な電子・陽電子衝突器が建設されれば、その後の実験素粒子物理学の中心を担う、国際的な研究所となるだろう。



Photo by Yukio Yanagi

例えば、ILC ではヒッグス粒子をたくさん作り精密に調べることが可能なので、CERN で発見された粒子が本当にヒッグス粒子なのかを確認し、その特性を調べることができる。ひいては、標準理論の妥当性を検証したり、宇宙の成り立ちに迫ることになる。また、現在発見されている 17 種類以外の素粒子の存在の有無、超対称性やダークマターの謎が解明されるかもしれない。さらに、コロンブスのアメリカ大陸発見のような、いわゆる serendipity (想定外の大発見) という夢がある。

ILC 建設の意義は専門分野だけにはとどまらない。日本の科学全般の振興に貢献し、技術者を育成し、産業界に刺激を与えることになるだろう。難しい問題に取り組むことによって生まれたアイデアや人材は他の分野へと波及する。例えば、具体的には加速器の設計技術、極低温技術、ビッグデータの解析などである。

日本は、これまでにノーベル賞を 26 名受賞しており (日本出身を含む)、そのうち 7 名は素粒子物理学分野での受賞である。この偉大な伝統を是非引き継いでいただきたい。すでにこの世を去られた、私の日本の良き友人達—南部陽一郎、大久保進、桜井純、戸塚洋二—。私は彼らの思いを想像して代弁する。日本の勇気ある創造力に満ちあふれた先駆的な取り組みに対し、最大限の支持を表明する。

ビデオメッセージ

【小柴昌俊博士】

小柴博士は 2002 年ニュートリノ研究でノーベル物理学賞を受賞。日本の科学者の中でいち早く、電子・陽電子の衝突実験の重要性を指摘されていた。今回は、科学者としての

自らの姿勢について言及されていた。

「何かの役に立つかどうかというのはあまり気にしたことはない。やってみなければ分からないこと、それが学問。日本に ILC ができるということは何より素晴らしいこと。新しい可能性が開けるわけだから。」

シンプルなメッセージがかえって力強く響いた。

【大隅良典博士】

大隅博士はオートファジーの仕組みの解明で 2016 年ノーベル生理学・医学賞を受賞。基礎科学研究の現況に対する危機感を訴えるメッセージであった。

●ノーベル賞に結びつくような仕事をするには

- サイエンスは特に効率で測れるようなものではない。長い年月をかけて研究を続けていくことが必要であり、そういうことが許される風土がないと育ちにくい。
- 「これが必ず出ます」というのはある意味ではサイエンスではない。「チャレンジ」、すなわち結果が分からないことへの挑戦を容認するような社会になることが必要である。
- 一部のエリートだけを集めて育てるだけでは空洞化してしまう。もっと裾野を広げる必要がある。

●サイエンスについて、また人類の未来について

- 日本のサイエンス文化がどういふものかという議論をしなければならぬ時期にきている。
- 多くの人々が理解して、楽しんで、あるときは批判ができて、という国になる以外、人類の未来はないのではないかと。
- 日本の人口を考えれば、すべての分野でトップランナーであるということはありません。日本がきちんと貢献できる分野を持つことが大事だと思う。素粒子はそういう分野の一つだと思う。



当日配布された資料の一部

パネル討論

再び、バリッシュ博士、グラショウ博士が登壇し、来場者から事前に寄せられた質問に答えた。

ILC 建設の最有力候補地がなぜ日本になったかという問いに対しては、グラショウ博士が、加速器・素粒子物理の分野で、日本が世界的に非常に大きな役割を果たしてきたことを考えると、欧州には CERN、アメリカにも似たような施設がいくつかある中で、国際的な施設を日本に作るのは自然な流れであると話された。

また、科学の進歩に関して、AI、コンピュータの進化により将来人間の仕事がなくなるのでは？という心配が中学生から寄せられたが、バリッシュ博士は「心配するな」と即答。自動化やコンピュータ化が普及して人間の手を離れる仕事もあるだろうが、その一方で、面白くやりがいのある仕事が創出されることになるだろう。自ら積極的に学び続けてチャンスに対して十分な備えをすることが重要であると、力強いメッセージを送られた。

最後に司会の高柳館長が、このシンポジウムが、人間の知的好奇心の営みとしての科学が費用対効果も含めて人間にとってどうなのか、また若い人達に科学の営みをどう伝えるべきかと考える良いチャンスになるだろうと述べて、締めくくられた。

ビデオメッセージを含めて 4 人の科学者のお話の根底には、基礎科学においては、役に立つかどうかではなく、分からないことを知りたいという姿勢が一番重要であり、限界を押し広げていく努力、取り組みは必ずや他の分野に波及する、という神聖とも言える信念があったように思う。その迫力に感銘を受けた。雑務に追われ、次々と起こる災害の報道に叩きのめされるような日々の中、幾ばくかの時間でもそのような心境に立ち返り、人間だけに与えられた知的好奇心を掘り起こすことこそが、“豊かさ”の元なのかもしれない。

(古庄洋子 昭 54 年物理、前田好 昭 58 年数学)

監修：鈴木厚人（岩手県立大学学長）

菅本晶夫（お茶の水女子大学名誉教授、お茶の水学術事業会副理事長）

協力：東北 ILC 推進協議会（ILC 準備室）

<http://www.tohoku-ilc.jp/index.php/anteroom/>

参考：高エネルギー加速器研究機構（KEK）ILC 推進準備室 HP (<https://www2.kek.jp/ilc/ja/>)

お茶の水女子大学 HP (<http://www.ocha.ac.jp/>)

ILC サポート事務局 (<https://ilcsupporters.jp/>)

お茶の水女子大学 イベント情報

2018 年 11 月以降に開催される各種イベントのお知らせです。


2018年11月3日(土・祝)、4日(日)開催

第 69 回徽音祭


お茶女時代

第69回を迎える今年の徽音(きいん)祭のテーマは「お茶女時代」。

日本舞踊や茶道などの日本文化や食物栄養学科で60年以上も引き継がれている「ときわじること」などの良き伝統を残しつつも、アイドルパフォーマンスをはじめとする現代のカルチャーもあり、様々な企画が盛りだくさんです！



徽音祭名物ときわじること




昨年は2万5000人もの方に足を運んでいただいた大盛況の2日間。お茶大独自の和やかな雰囲気、精一杯おもてなしします。ぜひお越しください！！

詳しい情報はこちら↓↓

第69回徽音祭公式HP
<http://kiinsai.sakura.ne.jp>

お茶の水女子大学第69回徽音祭実行委員会Twitter
@kln2018

Facebook, instagramも「徽音祭」で検索！是非ご覧ください。



徽音祭公式マスコットキャラクター きいちゃん

お茶の水女子大学歴史資料館 展示

1. 企画展示「女高師縁の教員と蔵書でみる数学教育 —江戸から現代まで—」

http://archives.cf.ocha.ac.jp/tenji_2018/

真島秀行お茶の水女子大学名誉教授の協力により、東京女子師範・高等師範学校の歴代数学教員を通して日本の算数・数学教育を概観する。併せて、2004年に附属図書館で発見された西田明則の旧蔵書等により江戸時代の和算の教育についても紹介する。

【期間】2018年12月まで（予定）
【会場】お茶の水女子大学 本館1階 歴史資料館2（136室）

2. 附属小学校創立140周年記念特別展示
「お茶小140年のあゆみ」

附属小学校所蔵の資料や卒業生・旧職員の提供資料をもとに、明治から平成にいたる140年の歩みの一部を紹介いたします。特に「茗鏡会」（附属小学校同窓会）のご協力で戦時中の学童疎開当時の資料も多数展示いたします。

【期間】2018年11月22日（木）まで（予定）
【会場】お茶の水女子大学 本館1階 歴史資料館1（121室）

※ 11月3日（土）・4日（日）は徽音祭に合わせて特別公開、自由に見学できます。
※ 他の日に見学をされる場合には、希望日の2週間前までに「お茶の水女子大学 図書・情報課 歴史資料館窓口」にお申込みください。
E-mail shiryo@cc.ocha.ac.jp

期日	イベント・講座名	参加費	備考
2018年 11月14日(水)	お茶の水女子大学附属高等学校 ① 第3回SGH公開授業	無料	【会場】 ①お茶の水女子大学附属高等学校 ②お茶の水女子大学講堂および附属高等学校 【主催】 お茶の水女子大学附属高等学校 【詳細】 ① http://www.fz.ocha.ac.jp/fk/menu/study/research-meeting.html ② http://www.fz.ocha.ac.jp/fk/ ※ 12月下旬以降 【問合せ】 お茶の水女子大学附属高等学校 研究部 玉谷直子 TEL 03-5978-5856 FAX 03-5978-5858 E-mail koukaiken2018-fk@cc.ocha.ac.jp 【申込み】 上記HPのWeb申込フォームをご利用ください。
2019年 3月16日(土)	お茶の水女子大学附属高等学校 ② SGH成果発表会		
2018年 11月17日(土) 13:00～	第102回日本栄養・食糧学会 関東支部大会 シンポジウム 【脂質と疾患の最新情報】	1,000円 学生無料	【会場】 お茶の水女子大学 共通講義棟2号館 201 【主催】 日本栄養・食糧学会 関東支部 【共催】 お茶の水女子大学ヒューマンライフイノベーション研究所 【詳細】 http://www-w.cf.ocha.ac.jp/ihli/20181117_symposium/ 【問合せ】 お茶の水女子大学 基幹研究院 栄養化学研究室 TEL 03-5978-5750 E-mail eishoku-kanto@cc.ocha.ac.jp 【申込み】 事前申込不要
2018年 11月30日(金) 12月25日(火) * 12月30日(水) 2019年 1月16日(水) 12月30日(水)	図書館ミニコンサート 演奏者：音楽表現(学)コース学生 ドリンクを片手に、ベヒシュタイン社のピアノの音色をお楽しみください * 12月25日はクリスマス・コンサート	無料	【会場】 附属図書館 1階ウェルカムラウンジ 【詳細】 附属図書館HP「コンサート情報」をご覧ください。 http://www.lib.ocha.ac.jp/concert.html 【問合せ】 E-mail: lib-serv@cc.ocha.ac.jp ※お申し込みは不要です。
2018年 12月8日(土) 14:00～16:00	お茶の水地理学会講演会 グローバル化する世界に暮らす：現代ネパールの諸相 講師：森本泉氏(明治学院大学国際学部教授 平5地)	無料	【会場】 お茶の水女子大学 理学部 3号館 701 【主催】 お茶の水地理学会 【共催】 お茶の水学術事業会 【申込み】 要、どなたでもご参加いただけます。葉書もしくはE-mailに、氏名・住所・電話番号を明記して下記まで 〒112-8610 文京区大塚 2-1-1 お茶の水女子大学文教育学部地理学コース内 お茶の水地理学会 E-mail chiriog@yahoo.co.jp 締切り：11月25日(日) (消印有効)
2018年 12月9日(日) 13:00～17:25	第6回宇宙講演会 ～子どもから大人まで宇宙に夢中！～ 【講演】「宇宙の誕生、進化と未来を探る新しい目」村山 斉(東京大学 カブリ数物連携宇宙研究機構 機構長)、「宇宙には何故ブラックホールがあるのか?」谷口 義明(放送大学 教授)、「地球の磁石、星の磁石」中道 晶香(京都産業大学 教授) 【パネルディスカッション】 「見えないものを視る」 モデレーター：森川 雅博(お茶の水女子大学 教授)	無料	【会場】 お茶の水女子大学 共通講義棟 2号館 201 室 【主催】 お茶の水女子大学理学部 【共催】 お茶の水女子大学理学系女性教育開発共同機構 【後援】 放送大学、自然科学研究機構国立天文台 【詳細】 http://www.ocha.ac.jp/event/20180828.html 【問合せ】 090-1058-8798(事務局) 【申込み】 お申込み不要 どなたでもご自由にご参加いただけますが、小学生以下は保護者同伴をお願いします。 ※駐車場はありません。 ※当日は正門からお入り下さい。
2018年 12月20日(木) 15:30～	ヒューマンライフイノベーション研究所 第3回公開シンポジウム 【健康ないのちを守るイノベーション(仮)】	無料	【会場】 お茶の水女子大学 共通講義棟2号館 201 【主催】 お茶の水女子大学ヒューマンライフイノベーション研究所 【詳細】 http://www-w.cf.ocha.ac.jp/ihli/ 【問合せ】 office-ihli@cc.ocha.ac.jp 【申込み】 事前申込不要
2019年 1月12日(土) 13:30～17:00	【ジェンダー視点に基づいたグローバル女性リーダー像】 先駆的な女性リーダー育成の実績を持つ韓国 梨花女子大学校およびノルウェー科学技術大学と連携して、それぞれの社会、大学における女性リーダー育成の課題を明らかにし、相互に解決の手法を学び、実践につなげる知見の基盤づくりを目的とする。 第1部 学長講演 【ジェンダー平等と女性のリーダーシップ】 第2部 パネルディスカッション 【グローバル女性リーダー：多様性とネットワーク】		【会場】 共通講義棟 2号館 201 室 【主催】 グローバル女性リーダー育成研究機構 グローバルリーダーシップ研究所、ジェンダー研究所 【問合せ】 グローバルリーダーシップ研究所 E-mail info-leader@cc.ocha.ac.jp 【申込み】 要事前申込 (http://www.cf.ocha.ac.jp/igl/ にて近日中に公開予定) 【その他】 同時通訳あり、託児あり(要事前予約)

期日	イベント・講座名	参加費	備考
2019年 2月21日(木)・ 22日(金)	お茶の水女子大学附属小学校 第81回教育実習指導研究会 学びをひらく ーともに“てつがくする”子どもと教師ー ・公開学習指導、学習指導についての話し合い ・課題別協議会(21日)、教科等協議会(22日) 【対談(21日)】 外山滋比古先生(お茶の水女子大学名誉教授) 内田伸子先生(お茶の水女子大学名誉教授) 【講演(22日)】今泉忠明先生(動物学者)		【会場】お茶の水女子大学附属小学校 【主催】お茶の水女子大学附属小学校 NPO 法人お茶の水児童教育研究会 【詳細】http://www.fz.ocha.ac.jp/fs/ 【問合せ】お茶の水女子大学附属小学校 TEL 03-5978-5875 FAX 03-5978-5872 【申込み】11月下旬より小学校ホームページにて事前申し込み受付 予定

2018年度 リケジョー 未来シンポジウム サイエンスの学びから将来の夢へ

【対象】女子高校生・中学生、保護者、教員、女子大学生・大学院生

【主催・お問い合わせ先】理系女性教育開発共同機構 TEL 03-5978-5825 E-mail:ocha-cos-office@cc.ocha.ac.jp

開催日時	イベント・講座名	参加費	備考
2018年 11月25日(日) 14:00～17:00	第13回リケジョー 未来シンポジウム 講演者：太田恵理子(化学)、三木彩雅(生物)、林愛美(物理)	無料	【会場】お茶の水女子大学 理学部3号館 701室
2018年 12月16日(日) 14:00～17:00	第14回リケジョー 未来シンポジウム 講演者：上田晴子(化学)、中島香菜子(人間・環境科学)、他1名	無料	【会場】お茶の水女子大学 大学本館 306室
2019年 1月6日(日) 13:30～16:30	第15回リケジョー 未来シンポジウム テーマ：「医療に結びつく仕事」 講演者：基調講演 飯田薫子(食物栄養学科教授・医師)、講演他2名	無料	【会場】お茶の水女子大学 大学本館 306室
2019年 3月24日(日) 14:00～17:00	第16回リケジョー 未来シンポジウム	無料	【会場】お茶の水女子大学 大学本館 306室

※シンポジウム終了後に茶話会があります(講演者と直接お話ができます)。

※詳細は、理系女性教育開発共同機構のHP(<http://www-w.cf.ocha.ac.jp/cos>)をご覧ください。

お茶大女性ビジネスリーダー育成塾：徽音塾 2018年度冬学期

企業等で指導的立場(上位の管理職)に就くことを目指す女性を応援するために開設された学びとネットワーク構築の場です。

● 授業時間 13:30～15:00、15:10～16:40(プレ講座以外)

● 各講座中1回、ランチを兼ねて塾生同士のネットワークを構築するための交流会(ネットワークキングランチ)を開催します。

講座名	開講日時	講師	主な内容
秋学期1月 イノベーションとアントレ プレナーシップ/CSRと 情報開示	「新規事業開発に効く！イノベーションと企業 家活動」 2019年1月5日、12日	鹿住 倫世 [専修大学 商学部 教授]	イノベーションの本質や創出、革新的な事業の 開発について、講義とケース分析、グループワ ークを通じて学ぶ。
	「サステナビリティと情報開示(ステークホル ダーの視点から)」 2019年1月19日、26日	達脇 恵子 [有限責任 監査法人トーマツ ア ドバイザリー事業本 部 パートナー、他]	サステナビリティについて、その歴史を紐解くと ともに、ESG投資、SDGs、CSVなどグロー バルのトレンドも踏まえて解説し、企業と社会 の関係のあり方を考える。
秋学期2月 企業と法律	「女性リーダーが使えるビジネス関連の法律」 2019年2月2日、9日、23日、 3月2日	汐崎 浩正 [西村あさ ひ法律事務所 弁護士 (パートナー)]	日常のビジネスに関する法律や制度の知識を 習得することを目的とする。可能な限り将来の 法改正の方向にも触れる。

【受講料】1講座 29,160円 ※初回お申込時のみ別途入塾料がかかります(お茶の水女子大学の卒業生・修生は不要)。

【場 所】お茶の水女子大学 人間文化創成科学研究科棟 6階 604室

【申し込み期間】1月講座 2018年11月12日(月)～12月10日(月) 必着

2月講座 2018年11月12日(月)～2019年1月15日(火) 必着

【お問い合わせ先】お茶大女性ビジネスリーダー育成塾：徽音塾 事務局(水・金 午前10時～午後5時)

TEL: 03-5978-5501 E-mail: kiin-le@cc.ocha.ac.jp

※詳細は、お茶大女性ビジネスリーダー育成塾：徽音塾 HP(<http://www-w.cf.ocha.ac.jp/leader/kiin/>) をご確認ください。

◆ 事業報告 共催講演会

● 桜蔭会山梨支部講演会

「私の半生と出会った女性たち」

講師 大村 智 博士 (北里大学特別榮譽教授)

【開催日時】 2018年5月7日(月) 15:00～17:00

【会場】 山梨県立図書館多目的ホール

【主催】 桜蔭会山梨支部

【共催】 一般社団法人桜蔭会、NPO 法人お茶の水学術事業会

【参加費】 無料

【参加人数】 約 150 名

2015年「線虫の寄生によって引き起こされる感染症に対する新たな治療法に関する発見」で、ノーベル生理学医学賞を受賞なさった大村智博士に講演を依頼し、ご専門の分野とは違う観点から、女性の社会貢献とその果たす役割についてお話をさせていただくことが実現しました。

先生は、時間はかかるが教育事業への投資ほど確かな投資はないという持論のもとに子どもたちの科学の芽を伸ばすこと、若い科学者の支援を目的とした「山梨科学アカデミー」を設立するなど郷里山梨にも大きな貢献をなさっていらっしゃいます。生い立ちから、ノーベル賞受賞、そして今日に至る過程で多大な影響を受けた女性たちについての今回のご講演は機知に富み、人生についての示唆に溢れた内容で150人を超える満場の聴衆を魅了されました。



まず大村先生が挙げられたのが母、祖母の存在です。「真に尊敬に値する母」から受けた情操教育、祖母の言葉「人のために役立つことをしなさい」が人生の原点になっていると述べられました。後に製薬会社からの特許料を原資に建設した北里大学メディカルセンター等で、収集した絵画を展示し患者の為にヒーリングアートを導入したこと、女流作家を中心とした大村美術館を作り地元韮崎市に寄贈したことも、この理念に基づいているのでしょうか。

次に「正師を得ざれば学ばざるに如かず」の言葉を引用し、人間形成、研究者としての成功、人材育成の実践に大きな影響を受けた師と仰ぐ方々とのエピソードを披露、一期一会の大切さを強調した内容は、聞き手の心を捉えるものでした。「人まねはしない、独自の研究で道を開くことではじめて相手を超えられる」「若い優秀な人材を育成するには一流の人たちの中で研鑽を積ませる必要がある」、この二つを創業、後進の指導において実践された点が特に印象的でした。この



精神こそが、他の人が着目しなかった動物薬イベルメクチン、更に人用の同治療薬の開発による途上国におけるオンコセル力症の撲滅という偉業を達成された根底にあるものと言えるでしょう。まさに先生の信条である「実践躬行」そのものです。この新薬の研究過程で大きな役割を果たした女性研究者、先生の研究を支え続けた奥様の話では女性の社会的役割の重要性を説き、女性ならではの忍耐力、努力に対する評価・敬意が参加者に感銘を与えました。

最後に、高齢になられても至高の芸術を追い求める女流画家との交流について興味深いお話が伺えました。絵も人柄も個性が強く100歳になってもたゆまざる向上心の持ち主であった片岡球子先生、「100歳まではいい絵を描きたい」が口癖というシルクロードの絵画で有名な入江一子先生、「群れず、慣れず、頼らず」を信条とする堀文子先生は、ブルーポピーを描くため80歳を過ぎてヒマラヤへ取材旅行をするなど好奇心旺盛であり、その作品には先生のぶれない生き方が表現されている等々。そして、全ての方々に共通していることは、つねに遠く高い目標を定め創作意欲を燃やし努力し続ける点であり、誰もが模範とすべき生き方であると話されました。

さらに趣味を中心とした健康管理・一期一会・研究と社会貢献という、先生が「黄金の三角形」と呼び日々の心得の重要性のお話で締めくくられました。参加者の多くから、この講演で得た人生哲学を今後の生活に反映していきたいという感想や、次回の講演会への期待が寄せられ、意義深い講演となりました。

(山梨支部 渡辺憲子 (昭46教育))

お茶の水学術事業会 事務局より

2019年度 共催講演会・助成金事業の募集のお知らせ

【対象となる事業期間】 2019年4月1日～2020年3月31日

【応募受付期間】 第一次：2018年10月1日～11月30日

第二次：2019年4月1日～5月31日

【詳細】 HP「共催・助成金」をご覧ください。

<https://www.npo-ochanomizu.org/kyousai.html>

夢のつばさ♥プロジェクト

「夢のつばさ♥プロジェクト」は、東日本大震災で親を失った子どもたちを長期にわたって支援することを目的として、お茶の水学術事業会を中心としたNPO法人4団体によって進められている事業です。

2018年夏キャンプ

【実施期間】2018年8月4日(土)～7日(火)

【開催地】(株)ブリヂストン保養所 奥多摩園(青梅市)

【参加内訳】小学生11名、中学生5名、高校生4名、専門学校生2名、学生ボランティアスタッフ58名(入替え有、OB/OG含む)、社会人スタッフ/協力者13名(看護師含む)

【主な内容】

8月4日	TEPIA 先端技術館見学、開会式	受験生企画
8月5日	朝の勉強会、謎解き脱出ゲーム、ゆめリンピック競技練習、音楽会	
8月6日	朝の勉強会、水遊び、ゆめリンピック大会	
8月7日	閉会式、写真スライドショー	

今夏は大変な酷暑で、夢のつばさでも、まずは子どもたちの体調管理を第一に考えて夏キャンプに臨みました。大学生は数か月、キャンプに向けてさまざまな企画準備を重ねています。子どもたちには全力で取り組んで、夢中になって楽しんでほしい、けれど熱中症にならないように、とハードルの高い3泊4日の活動となりました。

1日目は、東京駅からバスで、TEPIA 先端技術館へ見学に行きました。TEPIAでは、下見に行った学生が、シアターのスカイツリー建設の映像にある大震災関連の場面に気付



き、PTSDの可能性のある心の傷の癒えない子どもがいることをお話しすると、差し替えるなどの配慮をしてくださ

しました。映像視聴後は、パソコン上でプログラミングして、小さなドローンを飛ばして目標に着陸させる体験や、社会で活かされつつある最先端技術の展示や

実演を楽しみました。子どもたちは興味津々で、出発時刻になっても立ち去り難い様子でした。

2日目は、謎解きをして危機を打開するゲームに取り組みました。年々大学生の企画力が上がっており、よく工夫された課題で、大学生も一体となつてのチームの連帯感や達成感も高まりました。夕食後は恒例の音楽会です。ハーモニカ奏



者の大竹英二様とギタリストの岩田裕樹様が、時に軽快に、あるいは情感豊かに演奏くださいました。

3日目は、ゆめリンピック大会です。チームに分かれて、「ゴールボール(目隠しをして鈴入りボールを転がし合い、相手ゴールにボールを入れる)」、「シッティングバレーボール」などで競い合いました。これらは、パラリンピックなどで行われている種目です。炎天下の移動で体調を崩すことのないように、近隣の体育館に出かける予定を変更して奥多摩園の大研修室で行いましたが、集中力や技術も必要で、皆、夢中になって盛り上がりました。

キャンプ中、中学3年生を対象に個人教授を行うプログラムも実施、18歳となった子ども3名が、学生スタッフとなってキャンプ運営に参加し、頑張っていたのもうれい



ことでした。

(夢のつばさ♥プロジェクト)

ご寄附のお願い

【口座】三井住友銀行 大塚支店(店番号227) 普通1284200

【名称】特定非営利活動法人 お茶の水学術事業会 理事長 平野由紀子 ※夢のつばさプロジェクトの専用口座です。ご寄附いただく際には、ご芳名、ご住所(連絡先)を下記までお知らせください。

※恐れ入りますが、税金控除の対象にはなりませんので、あらかじめご了承ください。

連絡先: 事務担当 滝澤公子 TEL&FAX: 03-5978-5362 E-mail: tsubasa@npo-ochanomizu.org

2018年度 事業報告

● お茶の水学術事業会 2018年度セミナー実施報告

「こころとからだを拓くレッスン」

インストラクター：猪崎 弥生氏（お茶の水女子大学理事・副学長）、
落合 敏行氏（企画集団「落合商店」主宰）



【開催日時】 2018年7月6日(金)、9月14日(金)、
午前10時～11時30分

【会場】 お茶の水女子大学
Student Commons 2F マルチパーパス 1

【受講料】 1回につき500円

【参加】 7月6日：20名、9月14日：23名

昨年度ご好評をいただいた「こころとからだを拓くレッスン」を今年度は2回実施しました。

このセミナーは、舞踊学・舞踊芸術学を専門とする猪崎先生が、音楽に合わせてからだを動かすことを通して、心身がリラックスする感覚を実感し、自分を慈しんでいたきたいと、考案したものです。先生は「この時間だけはナルシストになって、自分のことだけを考えてください」と受講生に呼びかけました。

レッスンは仰向けに寝ることからスタートしました。からだをまっすぐに保ちつつ全身の力を抜くのは意外に難しく、左右どちらかに傾いたり、首や肩に力が入ったりする方が多いようでした。先生は、受講生一人一人の様子を丁寧に見て、アドバイスをしました。

そうして自分のからだを意識したところで、徐々に動いていきます。歩く、ステップを踏む、手を挙げる、ターンをするなど比較的単純な動きも、音とリズムに合わせて連

続させていくとダンスになります。一巡するごとに追加されていく動きを覚えて、順番通りに行くためには集中力も必要で、脳トレにもなります。先生は、自身の体験を紹介しつつ、無理のない範囲で自発的にからだに刺激を与えることが、こころにも良い影響を及ぼすと説きました。

一連のレッスンに欠かせないのが落合先生オリジナルの音楽です。猪崎先生の指導に合わせて、受講生の様子を見ながら、音量や緩急まで調節された音に身を任せる心地よさは、既製のCDでは決して味わうことのできない感覚です。

受講生は30代から70代までと幅広く、昨年度から連続3回参加して下さった方もありました。一方、「ついていけないかしら？」と心配されていた方もいらっしゃいましたが、猪崎先生の言葉と落合先生の音楽に励まされ、楽しんでいただけたようです。お帰りになる際、とても良い表情をしておられたのが印象的でした。

セミナー後のアンケートには、「先生の「生きること」に対する姿勢、このセミナーの哲学を味わった」「ワークショップだけでなく自宅のできるアドバイスもいただき、ありがたかった」といったコメントと併せ、「また開催して欲しい」との希望が多数寄せられました。



編集後記

今回の TOPICS は、理学部卒のスタッフが担当し、物理学分野のテーマを取り上げました。国境を越えて科学・技術の粋を集め、宇宙の誕生と進化の謎を解明しようとするプロジェクトには夢を感じます。人間は自然をコントロールすることはできませんが、探求し知ることのできるのですから。

広告募集

このページに広告を掲載しませんか？次号は2019年2月に2500部発行予定です。会員の皆様はじめ全国の公共機関などに配布しています。広告料金は、1回につき20,000円。詳しくは下記までお問い合わせください。

事務局

OPEN 月～金 10:00～16:00

〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1 お茶の水女子大学 理学部 3号館 204
TEL&FAX 03-5976-1478 E-mail : info@npo-ochanomizu.org
http://www.npo-ochanomizu.org

※会員の方は、お問合せの際、会員番号をお知らせください。会員番号は封筒の宛名ラベルに印字してあります。



◆事務局所在地
東京都文京区大塚2-1-1
お茶の水女子大学
理学部3号館204

◆交通機関

地下鉄 丸の内線
茗荷谷駅から徒歩7分

地下鉄 有楽町線
護国寺駅から徒歩8分

都バス
大塚2丁目バス停すぐ